



日本歯科色彩学会
<http://www.jacd-dc.jp>

日本歯科色彩学会 ニュースレター No.56

日本歯科色彩学会事務局 明海大学歯学部 保存修復学分野
〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

発行人/片山 直 TEL/049-285-5511 FAX/049-279-2741
発行日/平成26年2月28日

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

色彩も商標登録可能に

2013年9月、TPP制度整備で経済産業省が、産業構造審議会(経産相の諮問機関)知的財産分科会の初会合で、企業が商品やテレビCMで使っているイメージ音や映像、色彩など形のないものを商標として認める報告書を示し了承された、という。今年2014年後半にも商標登録が可能になる見込みという。

日本歯科色彩学会の研究で時勢を反映した研究は数多く成されているが院内など環境に関する研究は数少ないように見受けられる。色彩が歯の色に限らず広くファッション、インテリアなどにおいても重要視されていることは周知のことであり、景観における広告を含むそれぞれの美を競い、かつ独自に商標として登録する気配も持ち合わせることも課題となるのではないか。

他国特に米国や欧州では色彩が商標登録されており、社会動向として環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の知財交渉でも同様のルールが認められる公算が大きく、日本政府は交渉の行方を見据えて制度整備を急ぐ、とされている。現行の

日本の商標法は、文字や企業のロゴマークなどの記号といった形の定まったものが対象だが、海外展開する企業からは、言葉の違いを超えた宣伝や模倣品対策として効果が見込める音や色彩などの商標登録を求める声が多かったとのこと。こうした状況下にあって開業されている医院の場合、他との差別化を計るための戦略として他人事で済まされないかも知れない。色彩の課題が動く気配を感じている。序でながら企業が現在、海外で音などを商標登録する際、各国の言語で申請書を作成する必要がある。日本で商標登録が認められれば、国際機関を通じて英語で一括申請することが可能になり、手続きの簡素化が期待できる。経産省は今後、音や色彩などの商標範囲など詳細を詰める。申請手続きも、色彩の場合は願書に加え色彩表記のデータを求めるなど最適方法を検討する方針だ。

(以上ネットニュースより一部引用)

(元香昭夫)

第22回日本歯科色彩学会総会・学術大会のご案内

学 会 長：片山 直（明海大学歯学部 教授）
 大 会 長：新海航一（日本歯科大学新潟生命歯学部 教授）
 準備委員長：鈴木雅也（日本歯科大学新潟生命歯学部 講師）

第22回日本歯科色彩学会総会・学術大会を下記のように開催いたします。
 多くの皆様のご参加ならびにご発表をお待ちしております。

■開催概要

会期：2014年 7月26日（土）～ 27日（日）

会場：日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール

■大会メインテーマ：

「歯科におけるカラーコミュニケーション」

■開催日程

7月26日（土）	
1. 常任理事会	13：00～13：50
2. 理事・評議員会	14：00～14：50
3. 開会の辞	15：00～15：10
4. 特別講演 1 座 長：片山 直 先生(明海大学歯学部 機能保存回復学講座 保存修復学分野 教授) 講 師：元呑 昭夫 先生(カラーランド研究所 代表) 「歯科における歯冠色測色法について」	15：10～16：10
5. シンポジウム 座 長：永井 茂之 先生(永井歯科診療室 院長) テーマ：「的確な歯の色の伝達(仮題)」 講師①：遊亀 裕一 先生(山手デンタルアート 代表) 「歯科技工士に必要なカラーマネージメント」 講師②：小倉 充 先生(オグラ歯科医院 院長) 「シェードテイキング チェアサイドで何を見る、どこを見る、どうやって見る」	16：15～18：00
6. 懇親会 場所：スクエア(学内レストラン)	18：20～20：00
7月27日（日）	
1. 総会・表彰	9：00～9：30
2. 口演発表	9：35～10：35
3. ポスター発表	10：40～11：10
4. 特別講演 2 座 長：桃井 保子 先生(鶴見大学 歯学部 保存修復学講座 教授) 講 師：細谷 由美子 先生(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻展開医療科学講座 小児歯科学分野 准教授) 「研究における測色法について(仮題)」	11：15～12：00
5. 閉会の辞	12：00～12：05
講習会	
1. 必須コース 講 師：米倉 明里 先生(スガ試験機株式会社) 「分光測色計を使った測色テクニックを学ぶ(基礎講義と測色体験)」	13：10～14：30
2. 応用コース 講 師：有川 裕之 先生(鹿児島大学大学院 生体材料学) 「修復材料の光学的性質(光透過特性と反射特性)」	14：40～16：00

参加登録、演題・抄録申込み等、詳しくは学会ホームページにリンクされた
 第22回総会・学術大会ホームページをご覧ください。

2013年度 日本歯科色彩学会 見学会に参加して

2013年12月14日(土)に標記見学会が東京のTKP東京駅前カンファレンスセンターにて行われました。今回の題材は、東ソー株式会社(以下、東ソー)のジルコニアについての内容でした。東ソーの研究所や生産拠点は、山口県の南陽事業所で見学することも可能ですが、遠方のため今回は東京にて講演会形式での実施となりました。

東ソーの機能性無機材料部セラミックスBU植田邦義氏による講演は、まず東ソーの紹介から始まりました。東ソーはクロル・アルカリ事業、石油化学事業、機能商品事業を柱とした化学メーカーで、今回のテーマであるジルコニアは機能商品事業に属し、単一工場としては日本最大級の敷地を誇る南陽事業所にて生産が行われています。南陽事業所の広さを東京に例えて説明されましたが、事業所入口を東京駅だとすると、ジルコニアのプラントは半蔵門駅ぐらい離れていると伺えば、その広大さが想像できます。

次にジルコニア素材の特徴を説明されました。ジルコニアは、当初「セラミックス・スチール」としてデビューしました。単結晶のキュービックジルコニアは屈折率が大きくダイヤモンドのような輝きが得られることから宝飾品にも利用されています。多結晶のジルコニアはファインセラミックスとしてモース硬度が8、ビッカース硬度が1250と非常に硬い素材です。多結晶のジルコニアによる製品例として、はさみを回して試し切りしましたが、その切れ味は数枚重ねた紙でも引っかかること無くスムーズなものでした。歯科用のジルコニアは、安定化剤としてイットリウムを添加した正方晶ジルコニア多結晶で、そのジルコニア粉末をプレス成形して800~1000℃で仮焼されたブロックが供給されています。

東ソーは、1980年からジルコニアに取り組み、現在では世界シェアの75~80%、医療機器分野に

おいては90%を占めています。東ソーのジルコニアが高いシェアを占める理由は、強度、安定性、純度およびエージング特性に優れているからとのことでした。1990年から2010年までは、いかにジルコニアの強度を上げるかについて研究されていましたが、2010年にはジルコニアに透明性を付与したグレード、2013年にはジルコニアに着色したグレードが実用化され、審美修復材料としての多様性が増してきました。日本歯科色彩学会の講演ということもあり、透明性(透光感グレード)やカラーグレードについては特に詳細に説明され、VITA classical Shadeに対応した16色のカラーサンプルも供覧されました。

講演の最後では、活発な質疑応答が行われ、参加者の関心はジルコニア素材の着色や加熱焼成温度について集中していました。ジルコニア素材の着色に対する色再現に関しては、植田氏のヒットアンドエアーを繰り返して配合しているとの回答が色再現の難しさを表していると感じました。

場所を変えた懇親会では、美味しい蕎麦料理と美酒に舌鼓を打ちながら、ジルコニアの討議が熱を帯びて行われていました。

文末ながら、素晴らしい見学会を企画・運営された中澤 章先生、講師をご紹介頂きました宮崎 隆先生ならびに学会事務局の皆様から感謝申し上げます。

(埼玉歯科技工士専門学校 中山 友克)



故 橋口緯徳先生を偲んで

今年は例年になく厳しい寒さが続いております。橋口先生は、昨年5月15日、享年82歳で逝去されました。体調を崩されて居られる様子と伺っていましたが、改めて訃報に接し、深い悲しみと切々した追慕の心に耐えず、世の無常を嘆かずにはられません。

未だにご遺族の皆さまには、その胸中を拝察いたし、申し上げるべき言葉もございません。

思い起こせば、昭和41年、小生が真鍋満太先生の主宰する東京歯科医学講習所(MMクラブ)に入門した際に、真鍋先生の側近として我々を指導してくださいましたのが橋口先生でございました。

橋口先生は昭和27年、東京歯科医学専門学校を卒業され、昭和33年には東京歯科大学の助教授になられております。28歳の若さでの助教授は、秀才であられた先生だからこそその異例の出世でございませう。

その後松本歯科大学設立には多大な貢献をされました。先生なしでは設立不可能だったと思います。昭和54年松本歯科大学教授、そして松本歯科大学

衛生学院長に就任されました。

そのころから学校内に積分球を作られ、歯の色、そして色彩に傾倒され、日本歯科色彩研究会を立ち上げるに至ったわけでございます。

平成5年、研究会は日本歯科色彩学会に昇格、橋口先生は会長として3期務められました。まさに先生の情熱の賜物でございます。

そんな日本歯科色彩学会は、300程度の会員と熱心な向学者の集う、非常に和を重んずる家庭的な会となりました。会員として、改めて更なる会の発展のために努力を感じる次第です。

愛する御奥様、御子息、御息女に見守られ、幸せな人生であったと推測いたしております。ご子息の橋口英生先生も、先生の遺志を継ぎ、立派に活躍されておられます。ここにご生前のお人柄を偲びつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。安らかにお休みください。

合掌

(日本歯科色彩学会監事 神津 瑛)

編集後記

今号の発行が遅れお詫び申し上げます。

来たる平成25年7月26日・27日開催予定の第22回日本歯科色彩学会・学術大会が7年ぶりに新潟で新海航一大会長、鈴木雅也準備委員長により日本歯科大学新潟歯学部歯科保存学第二講座主催で開催されます。参加登録、演題等の詳細は学会HPでご覧いただきますようお願い申し上げます。

本学の特徴は学会名が示すようになんか特化した研究を行っている組織と一般に思われているようです。また本学会誌を見た方から内容が多岐に亘る

ため光学関係や心理学などにも関心を持たれるのではと指摘されました。どうやらニュースレターの配信は他の方法で公開することも考えることが必要なかも知れません。

さて今号から明海大学歯学部の市村葉先生がニュースレター委員として加わって頂いています。会員相互の情報交換として歯科の色彩に特化した記事を募集しておりますので、ぜひご意見等を本学会事務局宛お寄せ下さいますようお願い申し上げます。

(文責：元香昭夫)